安曇野市水道事業運営審議会　会議概要

1　審議会名　　平成20年度　第１回水道事業運営審議会

2　日　　時　　平成20年８月７日　午後１時30分から午後３時00分まで

3　会　　場　　安曇野市豊科総合支所　上下水道庁舎　２階会議室

4　出 席 者　　平林会長、加々美副会長、塚田委員、松村委員、矢ヶ崎委員、山﨑委員

5　市側出席者　太田部長、中野課長、小松課長、古幡課長補佐、高橋係長、小穴係長、齋藤係長、水谷係長、洞主査

6　公開・非公開の別　　公　開

7　傍聴人　　０人　　記者　１人

8　会議概要作成年月日　　平成20年８月14日

協　議　事　項　等

1　会議の概要

⑴　開　　会　　（中野課長）

⑵　会長あいさつ（平林会長）

⑶　協議事項　　（事務局から説明）

ア　平成19年度安曇野市水道事業会計決算状況の報告について

イ　安曇野市水道基本計画（水道ビジョン）の策定進捗状況について

ウ　その他

⑷　閉　　会　　（平林会長）

2　審議概要

⑴　平成19年度安曇野市水道事業会計決算状況の報告について

事務局：資料により説明

委　員：企業債の利率５％以上が繰上償還ということですが、一番高いのはどのくらいですか。

事務局：一番高いのは８％で、次に高いのは７％台です。これまで高金利のものが据え置きになっていましたが、国の制度変更により、市が経営健全化計画を策定し、承認されれば、繰上償還ができるということになりました。市では経営健全化計画を策定し承認されたので、５％以上がすべて借換えあるいは、繰上償還ができるようになったという経過です。

委　員：以前は、利率の関係じゃなくて、古いものから順に繰上償還ということだったということはないですか。

事務局：古いものから順にということはありませんでしたが、繰上償還が認められてなかったり、繰上償還してもあまりメリットがなかったということです。そのような中で、高いものが残されてきたという経過があります。

事務局：決算についての補足をすれば、市全体では6,400万円からの黒字となりましたが、穂高だけは5,581万円の赤字ということになっています。一昨年度の穂高が料金改定していなければ、おそらく１億円程度の赤字なっていたと考えられます。今後の穂高の見通しとしては、19年度まで大きな工事があったため、それに伴う減価償却費の影響で引き続き赤字となりますが、20年度を境に、改善していくと見込んでいます。

会　長：市全体では黒字で、今のところ穂高も20年度がピークで、それから随時、改善されるという説明なので、なるべく赤字にならないように、企業努力していただきたいと思います。

⑵　安曇野市水道基本計画（水道ビジョン）の策定進捗状況について

事務局：資料により説明

会　長：説明の中で、三郷の水源の問題が取り上げられましたけれども、ゆくゆくは地元との話し合いで水源をここにするということですか。

事務局：三郷の水源問題は、黒沢のダム建設との関係もありますが、現在の水道水は、表流水から取っています。表流水を取るには水利権が必要なため、地元小倉改良区の農業用水の一部を協定により、水道水に換えて使用してきたわけです。今後の水源については、黒沢だけでなく、他の水源及び経費の関係も含めて最終的に選択することとなります。

委　員：長期ビジョンを考える上で、企業の地下水汲み上げについて市としてはただ容認しているのか、どのように対応をしているのか。

事務局：実際、現在のところ地下水の規制というものは無いのが現状です。

会　長：もし、地下水の汲み上げによる影響で、水が出ないということになれば、特産のわさび田の皆さんは栽培できなくなって困ると思う。

事務局：市では、水をテーマとしてそれについて検討しようということになっており、水資源協議会というのがあって、過去のデータを基に降水量との関連等を調査しています。また、議会の一般質問でも「地下水は無限ではない、ある程度大切に使っていこうじゃないか」という話があったりするので、今後、「水」をテーマにいろいろな分野で研究していくことが計画されているようです。

事務局：地下水を利用している企業も、使った水を地下に戻すということで、試験的に始めたようです。

委　員：５地区の給水区域ということですが、既に隣接した地区間で接続してあって弁だけのところはありますか。

事務局：今のところはないです。水圧の関係があったりとするので、そこを調整しなければすぐというわけにはいかないと思います。

委　員：東北の地震のように、いつ、どのような災害があるか分からないので、一つの地区の市民に何かあった場合は、多少なりとも各地区間で融通がつけられたらいいという気がするんですが。

事務局：災害の場合、避難所等へ直接送水する緊急連絡管みたいなものを整備するなど考えていきたいと思っています。

事務局：安曇野市防災計画では、水に関しては水道部局が確保することになっていることから、災害時に各地区最低１箇所は配水地で水を蓄えていられるように、緊急遮断弁の整備をするなど、水道基本計画の中で検討しています。また、給水用の手提げバック、ペットボトル（飲料水）の項目もあることから、水道事業のおいしい水のPRと、災害用の備蓄の両面で、ペットボトル（飲料水）を作りたいと考えています。しかし、賞味期限の関係で大量に生産しても無駄になるため、市としての観光PRも兼ねて、利用してもらう方法で他の部署と話を進めている状況です。

委　員：資料の中で、各事業の有収率に随分差があるのは。

事務局：豊科は全体的に見て高低差が少ないところなので安定しているといえますが、明科辺りは山間地がありますし、高低差が大きく給水戸数も少ない関係があると思います。また、明科地域は５地域の中で老朽化が激しく、計画では三郷の水源計画の次は、明科の施設整備ということになると思います。

⑶　その他

事務局：昨年、豊科地区の料金改定と併せ、エプソンの今後の方針について、７月７日に関係者から説明を受けましたが、まだ会社として方針が決まっていないとのことです。現在のエプソンの使用水量は、ピーク時の７分の１、あるいは８分の１という状況となっています。